

白河市人口ビジョン

令和7年3月

白 河 市

目 次

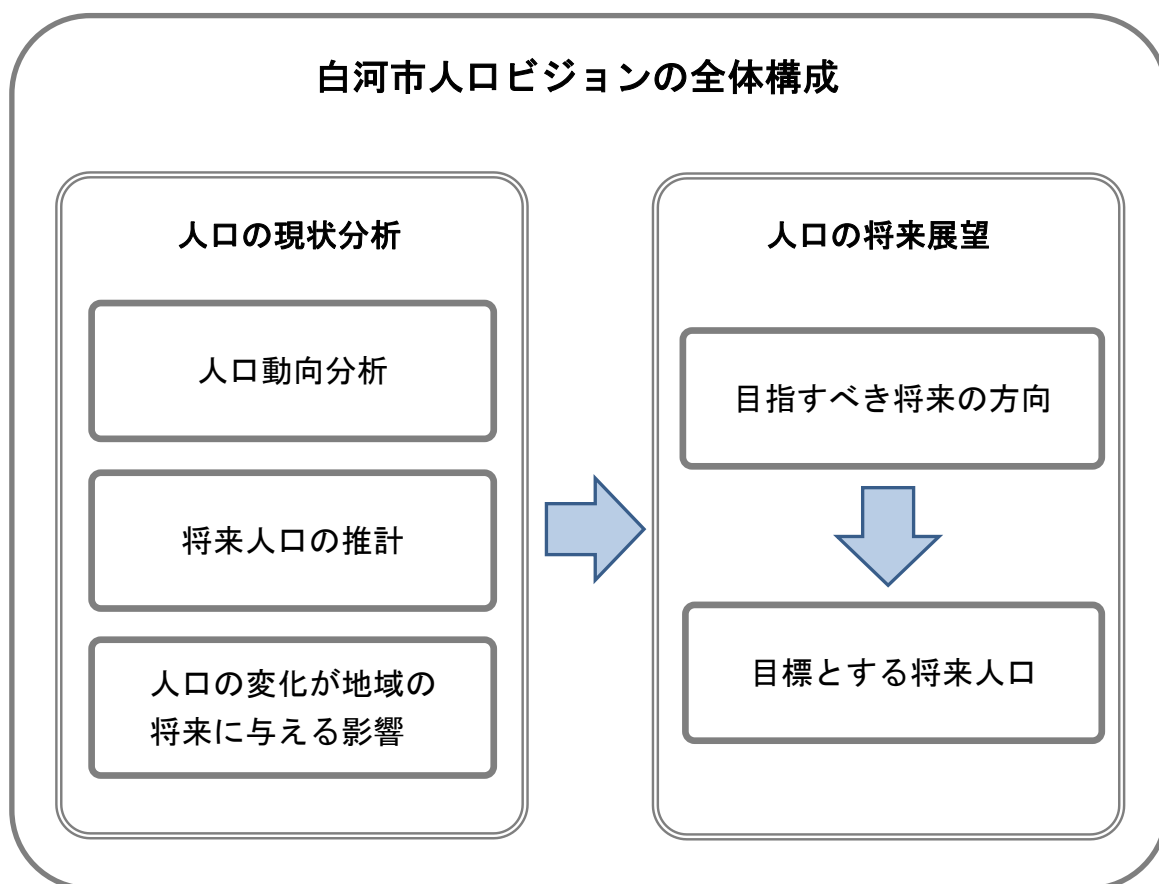
1. 人口ビジョン策定の趣旨	1
2. 人口の現状分析	2
2-1 人口動向分析	2
(1) 総人口	2
(2) 年齢別人口	3
(3) 人口動態	5
(4) 人口移動	8
(5) 産業人口	12
2-2 将来人口の推計	14
2-3 人口の変化が地域の将来に与える影響	15
(1) 住民生活への影響	15
(2) 地域経済への影響	15
(3) 行政への影響	15
3. 人口の将来展望	16
3-1 目指すべき将来の方向	16
3-2 目標とする将来人口	17

1. 人口ビジョン策定の趣旨

我が国の人口は、平成 20（2008）年を境に減少局面に突入し、今後、人口減少のスピードは加速度的に高まっていくとされています。

令和元年 12 月 20 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、人口減少を「静かなる危機」と表現し、日々の生活においては実感しづらいものの、このまま人口減少が続けば、将来的に経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなる問題であると警鐘をならしています。

「白河市人口ビジョン」は、まち・ひと・しごと創生法第 10 条に基づく「白河市みらい創造総合戦略」を策定するにあたって、本市における人口の現状を分析し、市民、行政、各団体が認識を共有するとともに、目指すべき将来の方向や目標とする将来人口を提示するもので、効果的な施策を企画立案する上での重要な基礎となるものです。



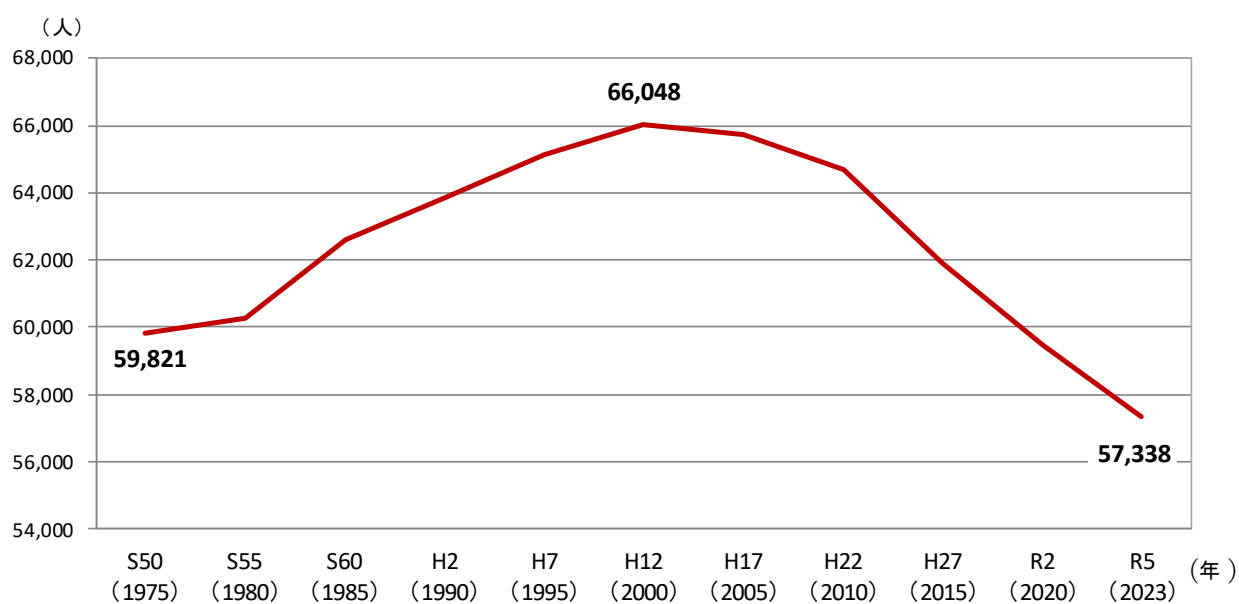
2. 人口の現状分析

2-1 人口動向分析

(1) 総人口

●本市の総人口は、平成 12（2000）年の 66,048 人をピークに減少に転じており、令和 5（2023）年 10 月 1 日現在では 57,338 人となっています。

総人口の推移



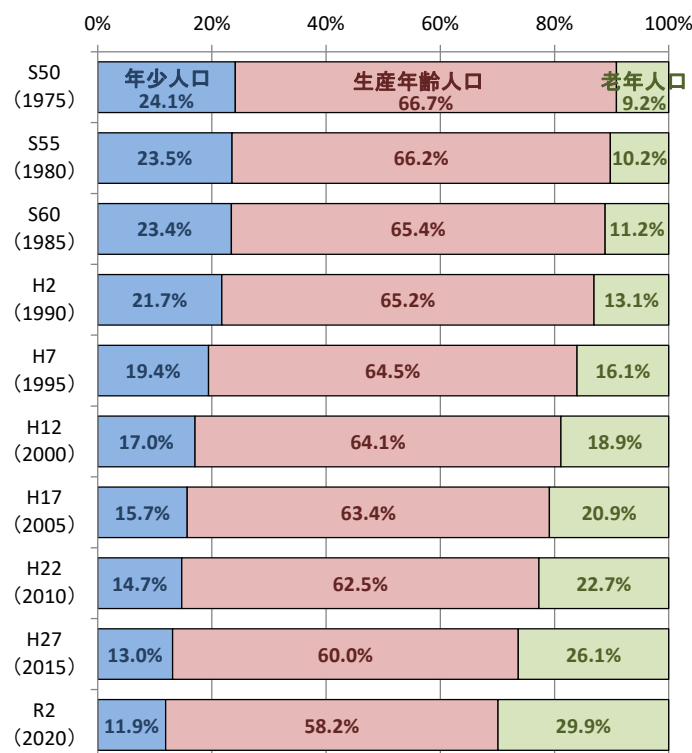
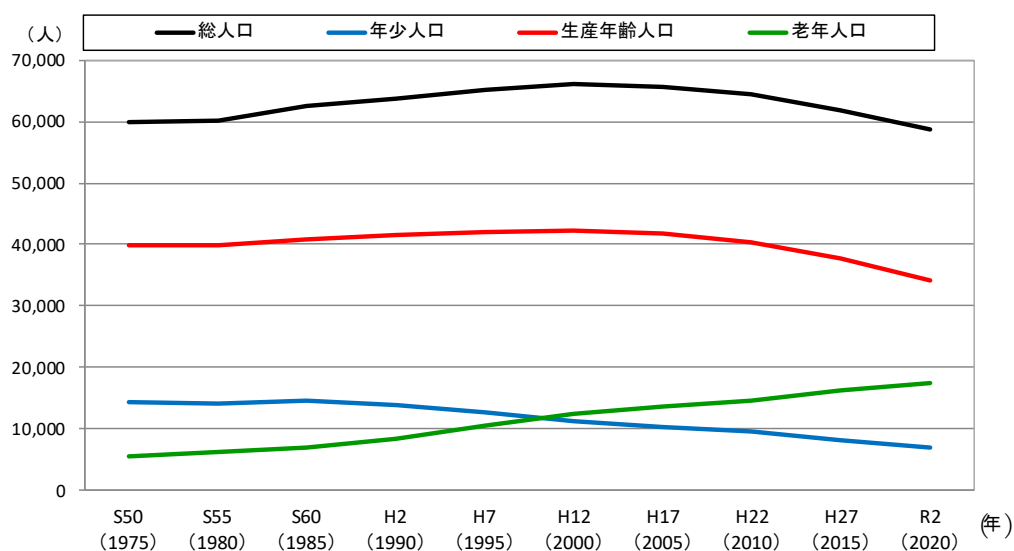
資料：S50～R2）総務省統計局「国勢調査」、R5）「現住人口（白河市 HP）」

(2) 年齢別人口

1) 年齢3区分別人口

- 昭和50（1975）年以降、老年人口（65歳以上）は一貫して増加しています。
- 一方で、年少人口（0から14歳）は昭和60（1985）年まで、生産年齢人口（15から64歳）は平成12（2000）年まで増加し、その後減少に転じました。
- 年齢3区分の構成割合を見ると、昭和50（1975）年から令和2（2020）年までの45年間で、年少人口の割合が半減している一方、老年人口の割合は約3.2倍に増加しています。

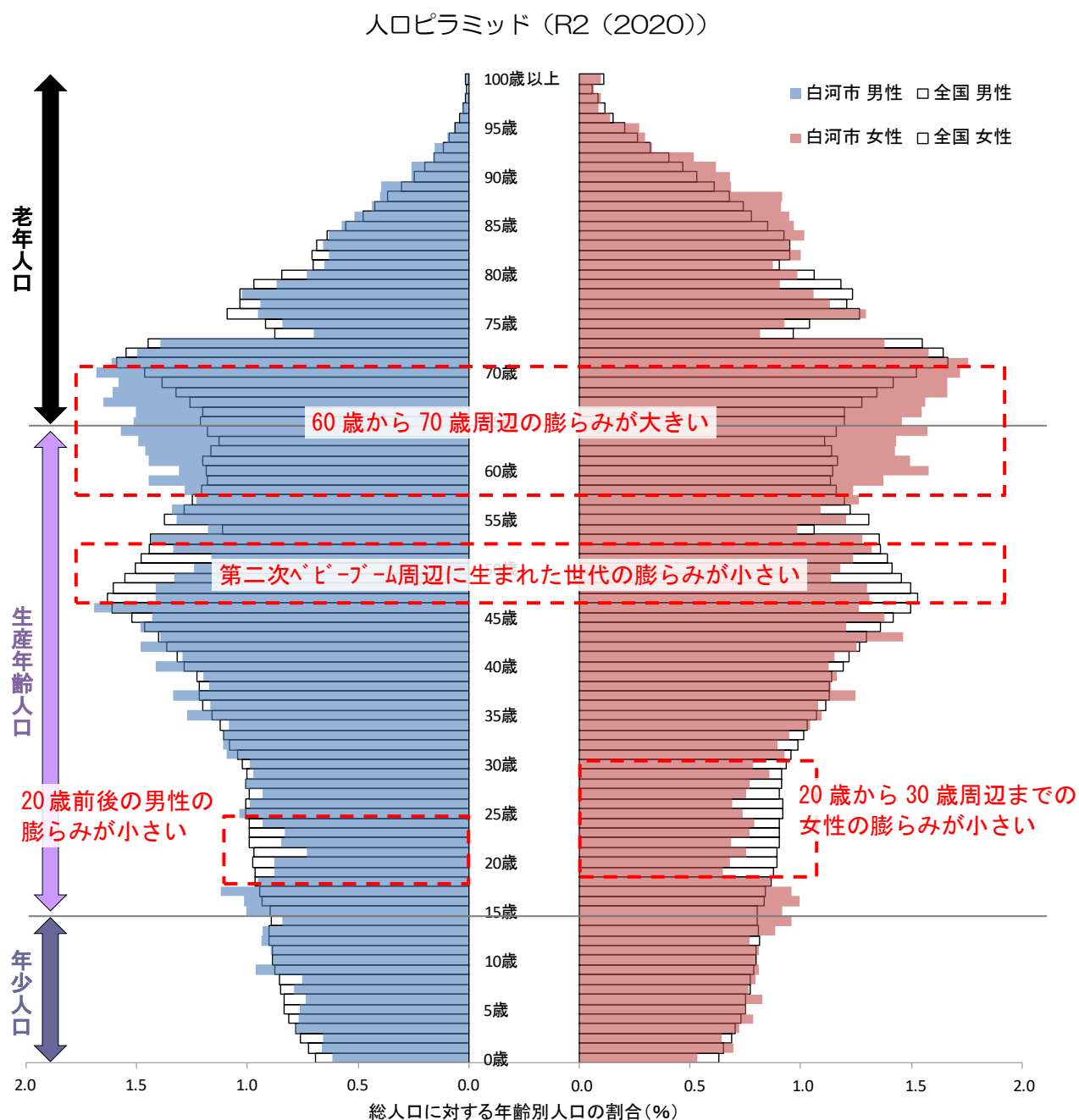
年齢3区分別人口構成の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」 年齢不詳含めず

2) 人口ピラミッド

- 本市の人口ピラミッドは、全国に比べ、男女ともに、60 歳から 70 歳周辺の膨らみが大きくなっています。
- 一方、第二次ベビーブーム周辺に生まれた世代や 20 歳前後の男性、20 歳から 30 歳周辺までの女性の膨らみが小さくなっています。



資料：総務省統計局「国勢調査」

(3) 人口動態

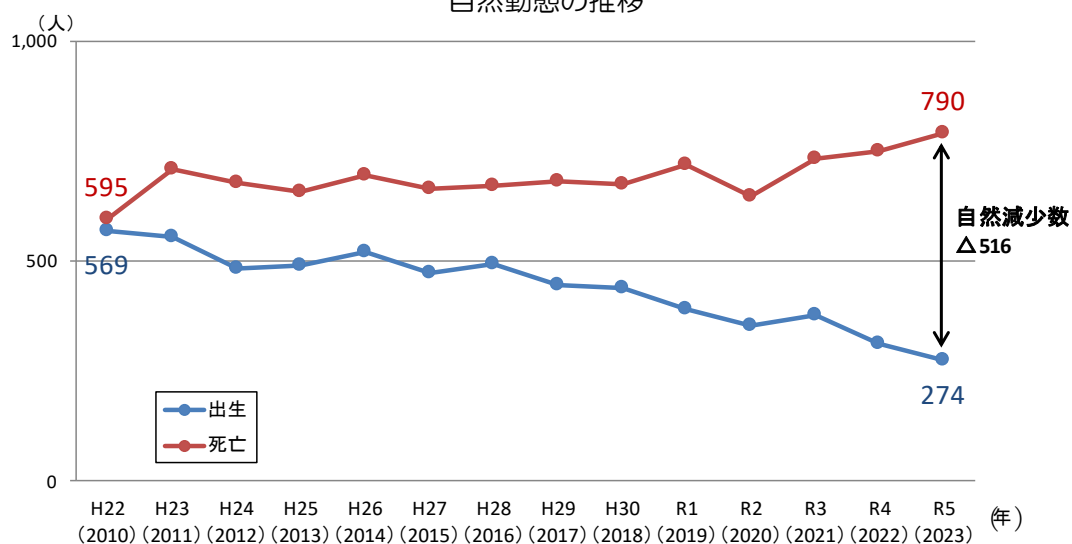
1) 自然動態と社会動態の推移

- 平成 22（2010）年以降の自然動態をみると、死亡数が出生数を上回る自然減が続いており、令和 5（2023）年の自然減少数は 516 人となっています。社会動態では、転出者数が転入者数を上回る転出超過が続き、令和 5（2023）年の社会減少数は 366 人となっています。
- 平成 30（2018）～令和 4（2022）年の 5 年間ににおける本市の合計特殊出生率は 1.41 で、全国（1.33）や福島県（1.37）を上回っています。
- 平成 30（2018）年から令和 5（2023）年の各年における本市の合計特殊出生率の推移をみると、平成 30（2018）年の 1.61 から令和 5（2023）年の 1.15 へと大きく低下しています。

※合計特殊出生率：15 から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、一人の女性が一生の間に産む子どもの数に相当する。

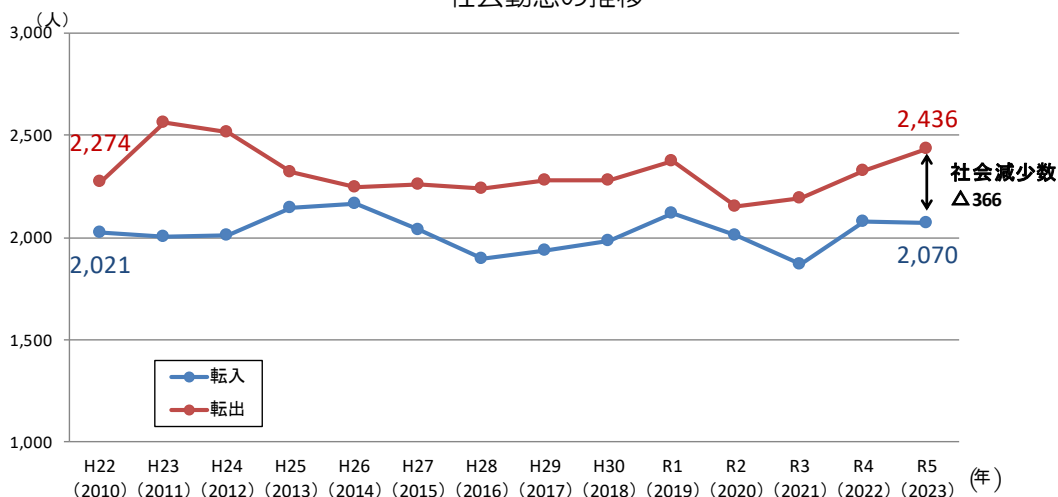
※平成 24 年度以降の転出者数、転入者数は、住民基本台帳法の一部改正（平成 24 年 7 月 9 日）により外国人を含めた数字となっているため、平成 24 年以前の数字との単純比較はできない。

自然動態の推移



資料：福島県「福島県現住人口調査年報」

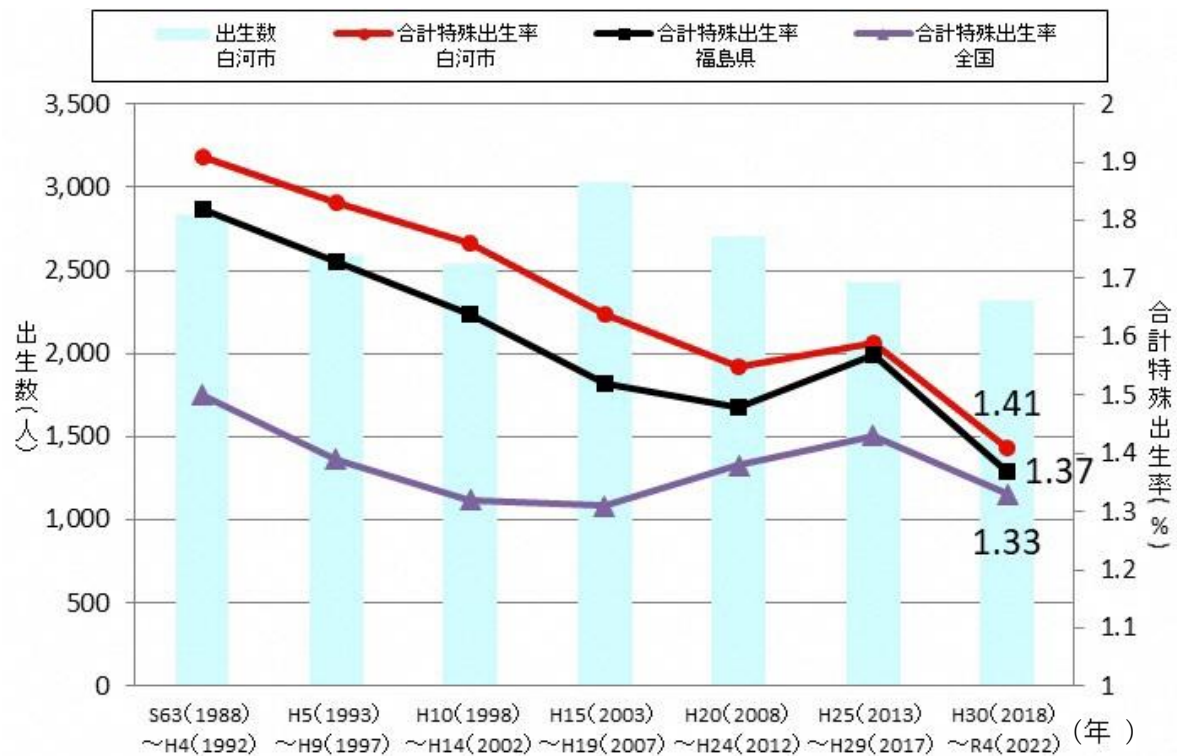
社会動態の推移



※制度変更により、平成 24 年 7 月から市内居住外国人人口を含む。

資料：福島県「福島県現住人口調査年報」

合計特殊出生率と出生数の推移



資料：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

本市の合計特殊出生率の推移

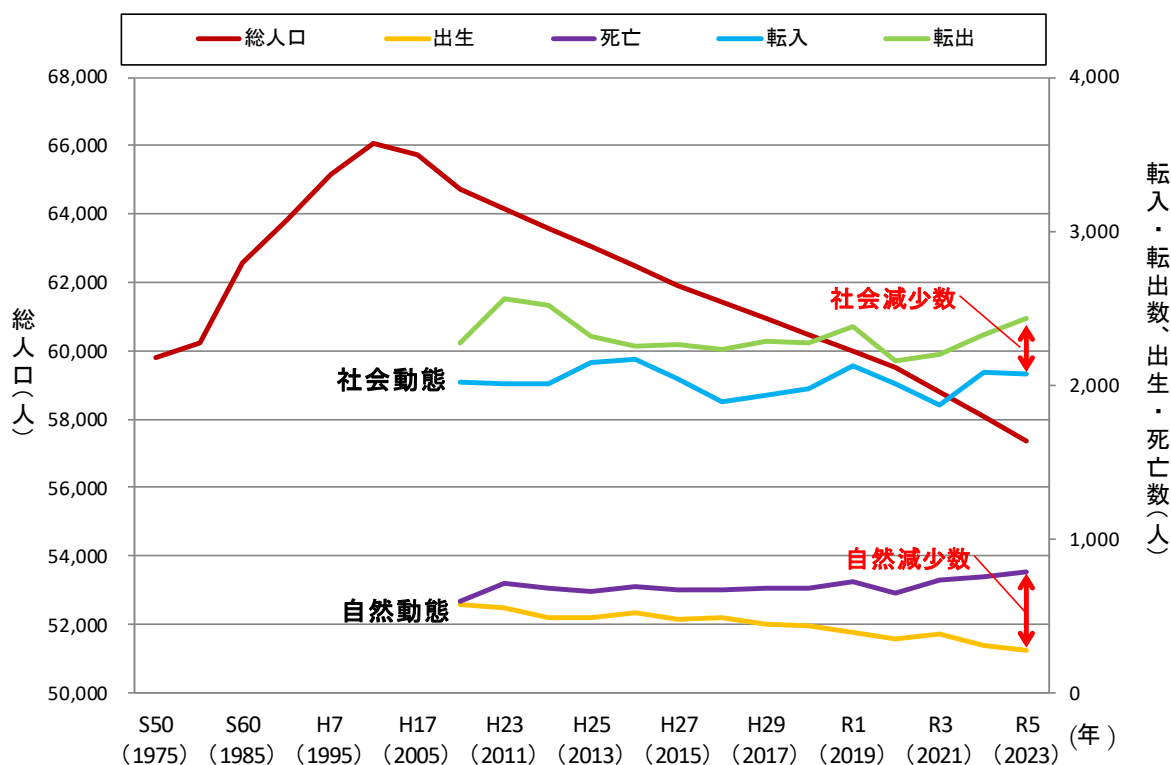
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
合計特殊出生率	1.61	1.46	1.33	1.49	1.24	1.15

※本市の合計特殊出生率は、目安を示すために算出した参考値となります。

2) 総人口の推移に与えてきた自然動態と社会動態の影響

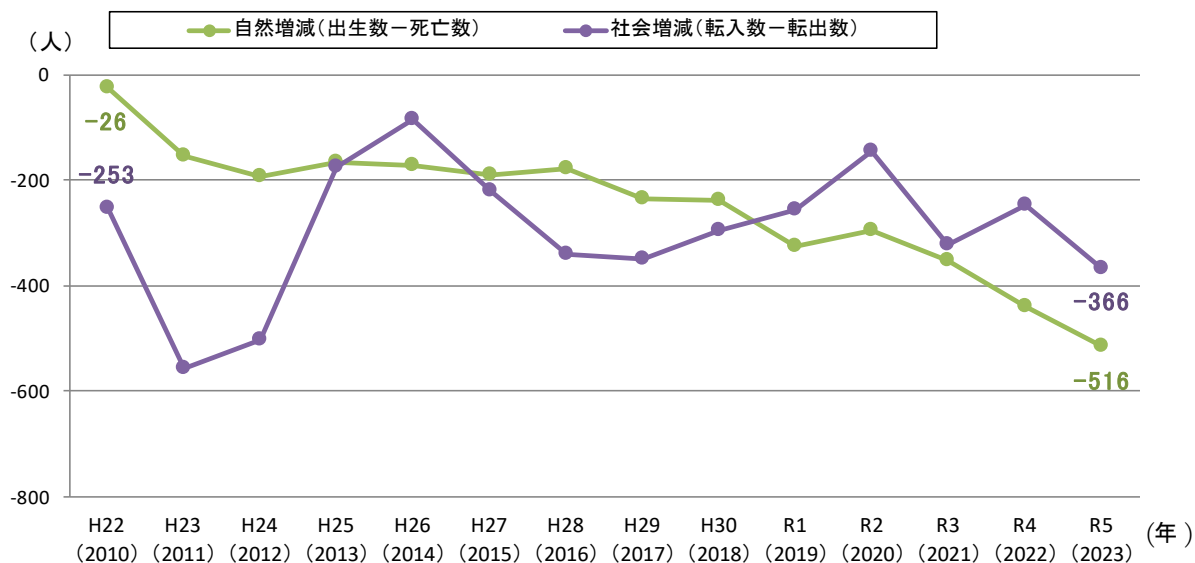
●死亡数が出生数を上回る自然減と、転出数が転入数を上回る社会減が続いており、総人口の減少が進行していますが、近年は特に自然減の影響が大きくなっています。

総人口と自然動態及び社会動態



資料 人口：S50～R2) 総務省統計局「国勢調査」
社会動態、自然動態：福島県「福島県現住人口調査年報」

自然増減と社会増減の推移



※制度変更により、平成24年7月から市内居住外国人人口を含む。

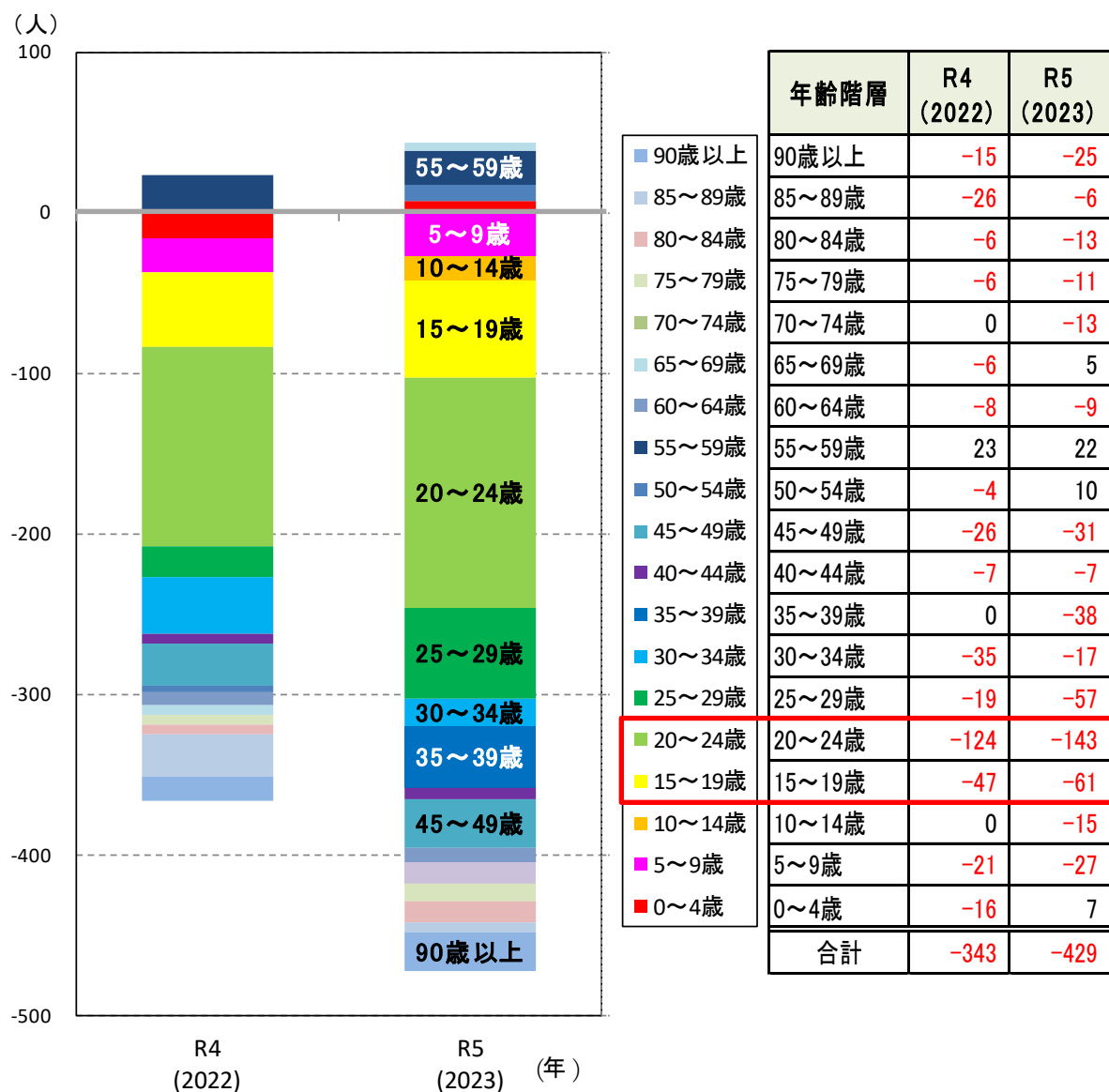
資料：福島県「福島県現住人口調査年報」

(4) 人口移動

1) 年齢階層別人口移動

- 15～19 歳、20～24 歳では、他の世代に比べて転出数が転入数を大きく上回っており、若者の人口流出が社会動態における人口減少の最大要因になっていると考えられます。
- 令和4（2022）年と令和5（2023）年を比較すると、令和5（2023）年では、ほとんどの年齢階層で転出超過数が増加しています。

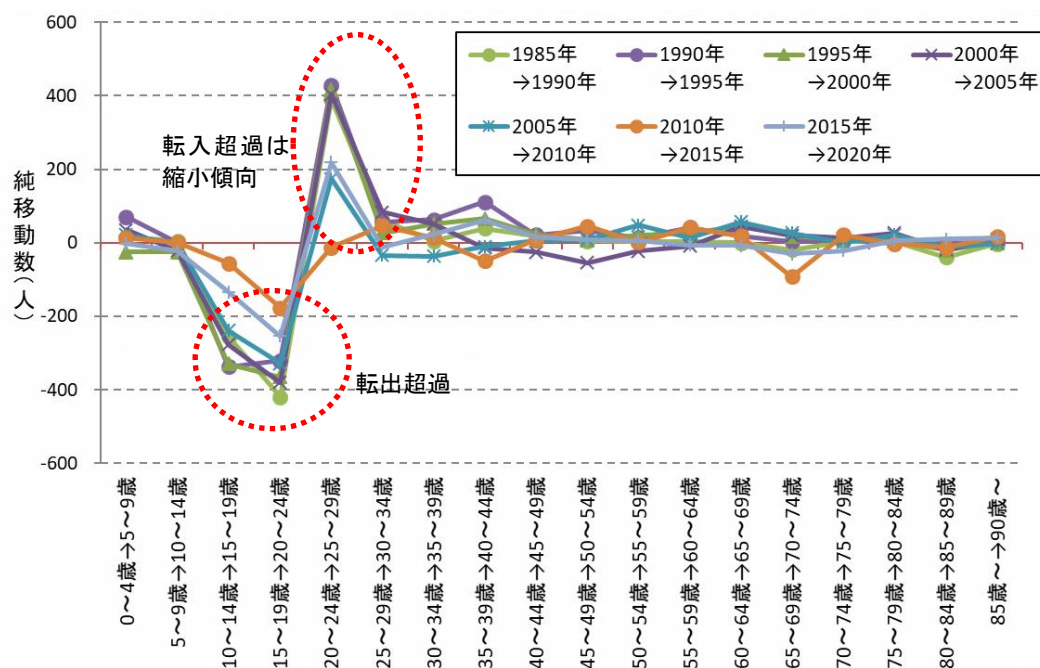
年齢階層別移動者数



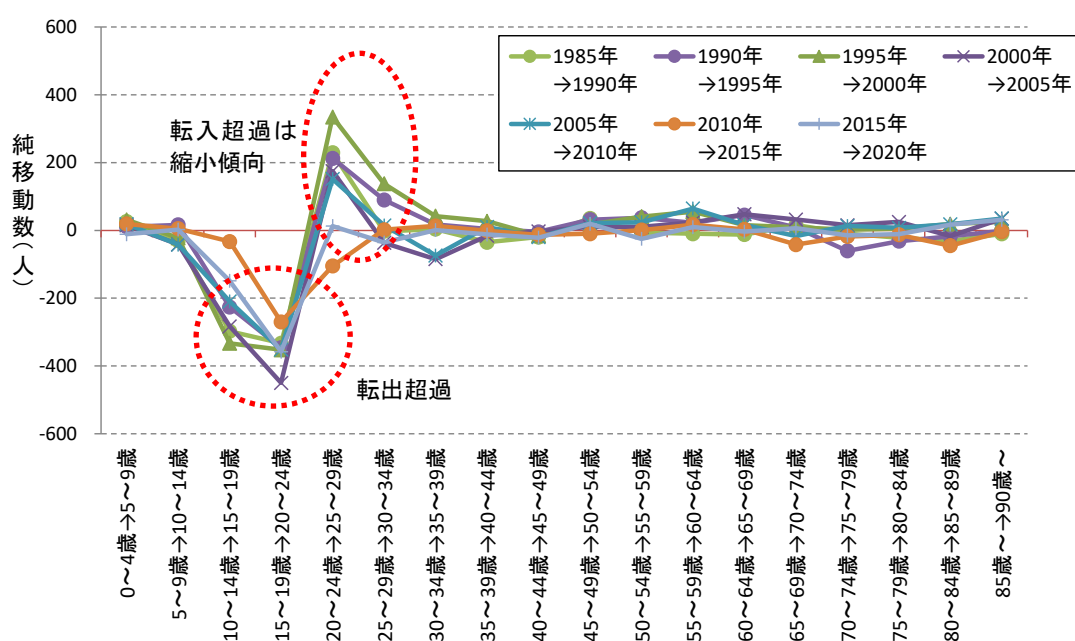
2) 性別年齢階層別人口移動

- 性別年齢階層別人口移動を長期的に見ると、男女ともに「10～14歳→15～19歳」、「15～19歳→20～24歳」となるタイミングで転出超過となっています。
- 一方、「20～24歳→25～29歳」、「25～29歳→30～34歳」となるタイミングは、男女ともに転入超過の傾向はありますが、転入超過の総数が上記転出超過の総数を下回るため、若い世代の人口減少が進んでいます。

性別年齢階層別人口移動の推移（男性）



性別年齢階層別人口移動の推移（女性）



資料：総務省統計局「国勢調査」

3) 主な地域における人口移動

●本市からの転出数が転入数を上回る地域

・令和4（2022）年

県内）西郷村、郡山市、矢吹町 など

県外）東京都、栃木県、茨城県 など

・令和5（2023）年

県内）西郷村、郡山市、福島市 など

県外）埼玉県、東京都、宮城県 など

●本市への転入数が転出数を上回る地域

・令和4（2022）年

県内）棚倉町、いわき市

県外）埼玉県

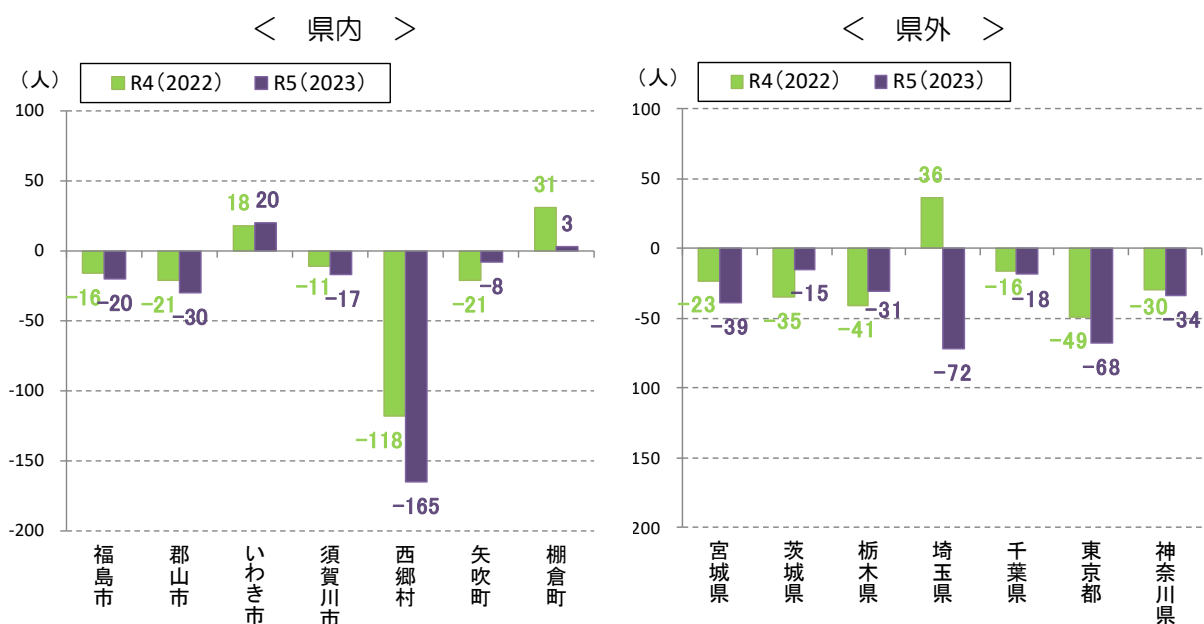
・令和5（2023）年

県内）棚倉町、いわき市

県外）なし

●特に、東京都などの首都圏や西郷村への大幅な転出超過が目立っています。

地域別移動者数（主な地域）



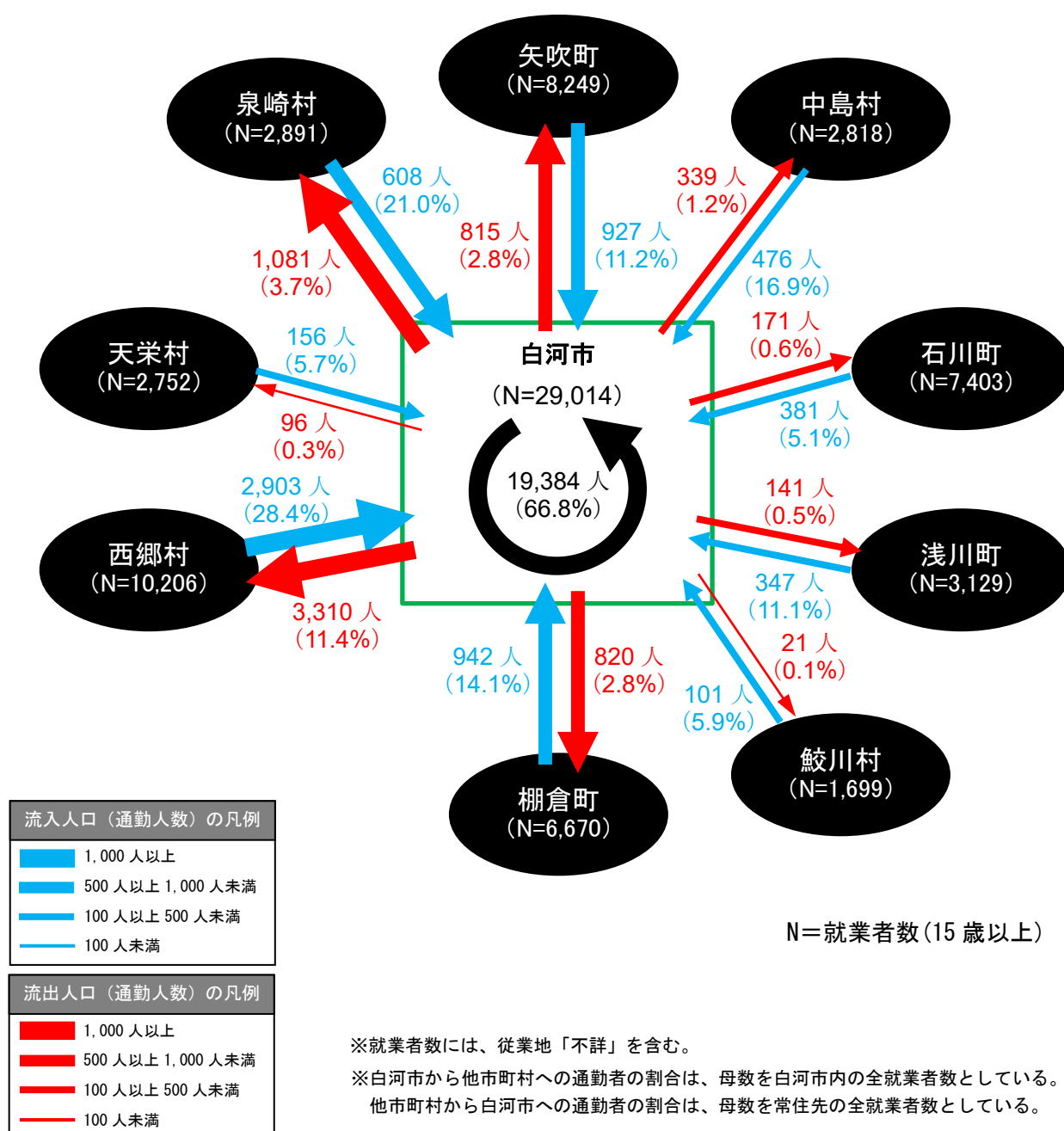
資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

《参考資料》 白河市の通勤圏

- 白河市に居住する就業者の 29,014 人のうち、19,384 人（66.8%）は、市内に通勤しています。
- 市外の通勤先については、西郷村が最も多く、白河市に居住する就業者の 11.4%を占めています。
- 周辺町村から白河市への通勤者は、西郷村からは 2,903 人、棚倉町からは 942 人、矢吹町からは 927 人となっています。

白河市と周辺市町村の通勤流動【R2（2020）】

[流入又は流出が 5%以上の市町村を表示]



資料：総務省統計局「国勢調査」

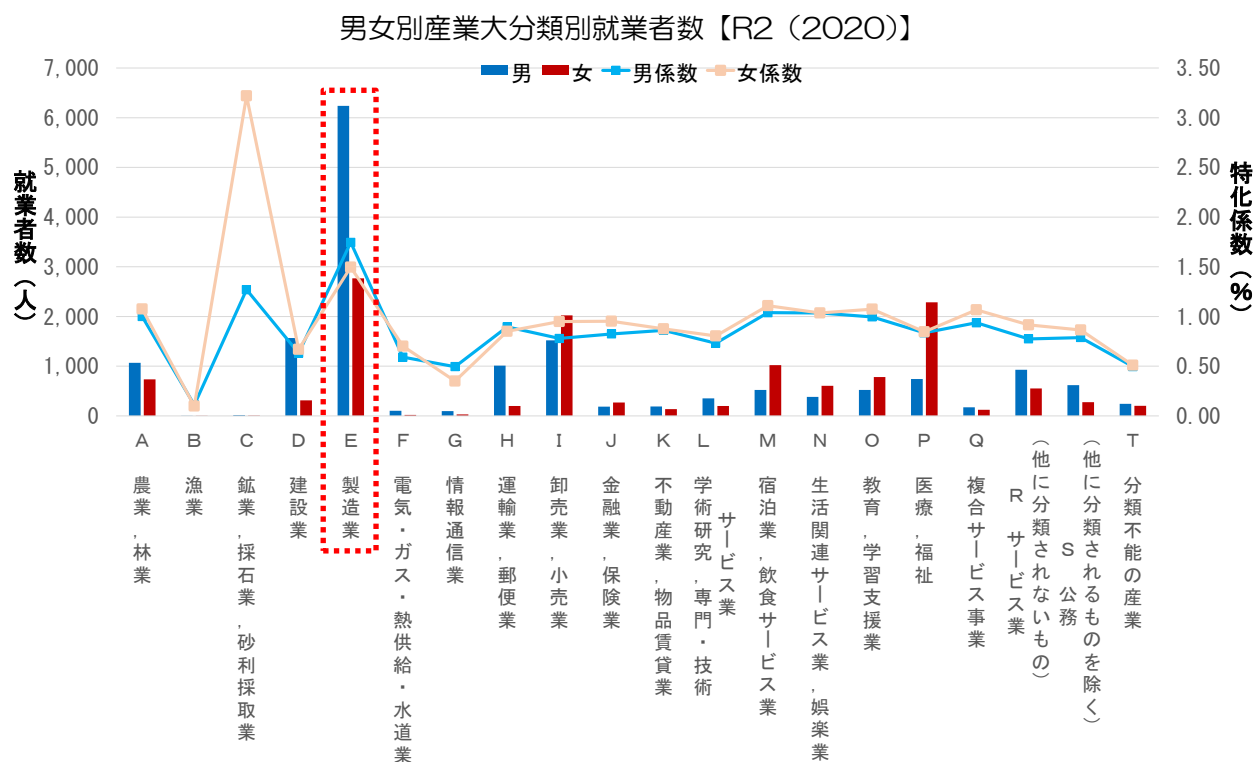
(5) 産業人口

1) 産業大分類別就業者数

- 男女ともに就業者が多い産業は製造業で、次いで男性については、建設業、卸売業・小売業、女性については、医療・福祉、卸売業・小売業の就業者が多くなっています。
- 製造業は、男性・女性ともに特化係数※も高いことから、本市の特徴として、製造業の就業者割合が高いことがわかります。

※特化係数：白河市の産業別就業者比率が、福島県と比べて、どの程度高いかを示す指標

「白河市における産業別就業者比率÷福島県における産業別就業者比率」で算出



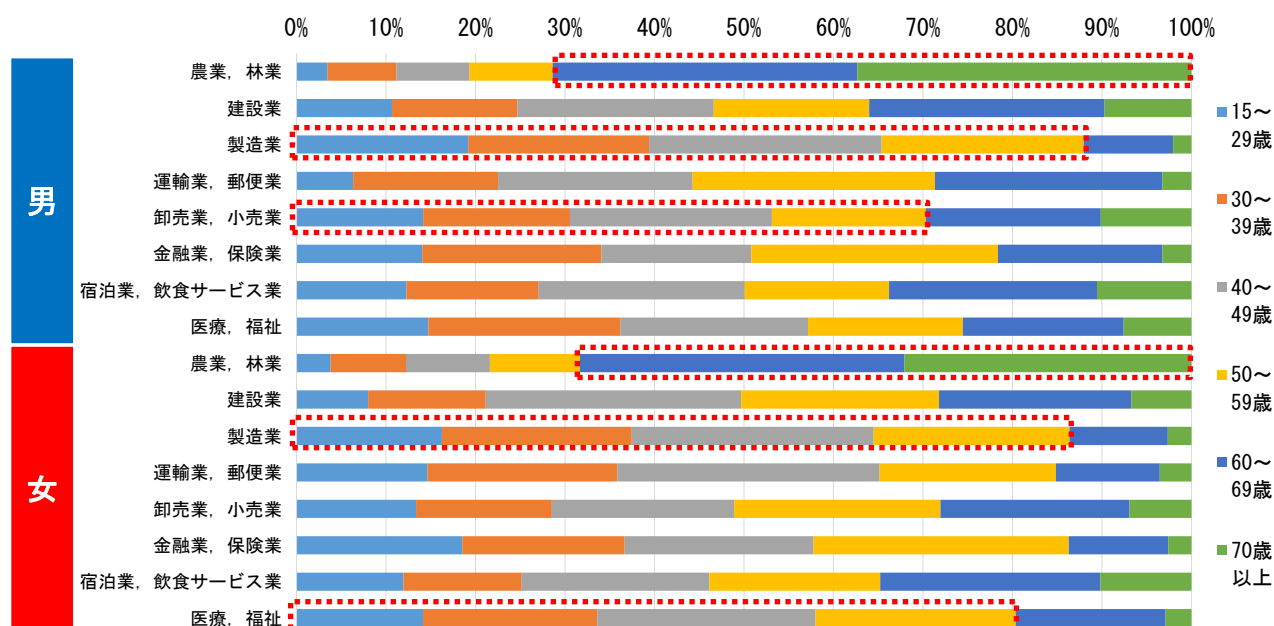
産業大分類	白河市						福島県						特化係数①/②		
	就業者数（人）			就業者比率①			就業者数（人）			就業者比率②					
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
A 農業、林業	1,066	736	1,802	6.5%	5.9%	6.2%	31,623	20,925	52,548	6.5%	5.5%	6.0%	1.00	1.08	1.03
うち農業	1,004	715	1,719	6.1%	5.7%	5.9%	29,772	20,584	50,356	6.1%	5.4%	5.8%	1.00	1.06	1.03
B 漁業	3	1	4	0.0%	0.0%	0.0%	807	310	1,117	0.2%	0.1%	0.1%	0.11	0.10	0.11
C 鉱業、採石業、砂利採取業	17	6	23	0.1%	0.0%	0.1%	397	57	454	0.1%	0.0%	0.1%	1.27	3.22	1.52
D 建設業	1,566	312	1,878	9.5%	2.5%	6.5%	73,510	14,245	87,755	15.1%	3.7%	10.1%	0.63	0.67	0.64
E 製造業	6,238	2,768	9,006	37.9%	22.1%	31.0%	105,990	56,604	162,594	21.7%	14.8%	18.6%	1.74	1.50	1.66
F 電気・ガス・熱供給・水道業	103	18	121	0.6%	0.1%	0.4%	5,169	785	5,954	1.1%	0.2%	0.7%	0.59	0.70	0.61
G 情報通信業	96	30	126	0.6%	0.2%	0.4%	5,754	2,627	8,381	1.2%	0.7%	1.0%	0.49	0.35	0.45
H 運輸業、郵便業	1,012	198	1,210	6.1%	1.6%	4.2%	33,522	7,118	40,640	6.9%	1.9%	4.7%	0.90	0.85	0.89
I 卸売業、小売業	1,519	2,022	3,541	9.2%	16.1%	12.2%	57,810	65,137	122,947	11.8%	17.0%	14.1%	0.78	0.95	0.87
J 金融業、保険業	185	270	455	1.1%	2.2%	1.6%	6,651	8,669	15,320	1.4%	2.3%	1.8%	0.82	0.95	0.89
K 不動産業、物品賃貸業	190	136	326	1.2%	1.1%	1.1%	6,545	4,756	11,301	1.3%	1.2%	1.3%	0.86	0.87	0.87
L 学術研究、専門・技術サービス業	351	200	551	2.1%	1.6%	1.9%	14,228	7,604	21,832	2.9%	2.0%	2.5%	0.73	0.80	0.76
M 宿泊業、飲食サービス業	521	1,021	1,542	3.2%	8.1%	5.3%	14,873	28,158	43,031	3.0%	7.3%	4.9%	1.04	1.11	1.08
N 生活関連サービス業、娯楽業	383	606	989	2.3%	4.8%	3.4%	10,961	17,905	28,866	2.2%	4.7%	3.3%	1.04	1.04	1.03
O 教育、学習支援業	522	782	1,304	3.2%	6.2%	4.5%	15,543	22,283	37,826	3.2%	5.8%	4.3%	1.00	1.07	1.04
P 医療、福祉	740	2,286	3,026	4.5%	18.2%	10.4%	26,272	82,733	109,005	5.4%	21.6%	12.5%	0.84	0.85	0.83
Q 複合サービス事業	171	124	295	1.0%	1.0%	1.0%	5,413	3,554	8,967	1.1%	0.9%	1.0%	0.94	1.07	0.99
R サービス業 （他に分類されないもの）	928	552	1,480	5.6%	4.4%	5.1%	35,525	18,461	53,986	7.3%	4.8%	6.2%	0.77	0.91	0.82
S 公務 （他に分類されるものを除く）	617	274	891	3.7%	2.2%	3.1%	23,225	9,694	32,919	4.8%	2.5%	3.8%	0.79	0.86	0.81
T 分類不能の産業	243	201	444	1.5%	1.6%	1.5%	14,526	12,076	26,602	3.0%	3.1%	3.1%	0.50	0.51	0.50
合計	16,471	12,543	29,014	100.0%	100.0%	100.0%	488,344	383,701	872,045	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	-

資料：総務省統計局「国勢調査」

2) 産業大分類別性別年齢階層構成

- 特化係数が最も高い製造業は、生産年齢人口に該当する60歳未満で約90%を占めており、年齢階層間の割合に大きな差異はみられません。
- 男性で就業者が多い卸売業・小売業については、幅広い年齢層がバランスよく就業しており、女性の就業者が多い医療・福祉は、60歳未満の就業者で約80%を占めています。
- 農業、林業については、男性・女性ともに60歳以上の割合が約70%を占めており、高齢化が顕著であることから、今後急速に就業者が減少していくと考えられます。

男女別産業大分類別就業者数の年齢階層構成【主な産業；R2（2020）】



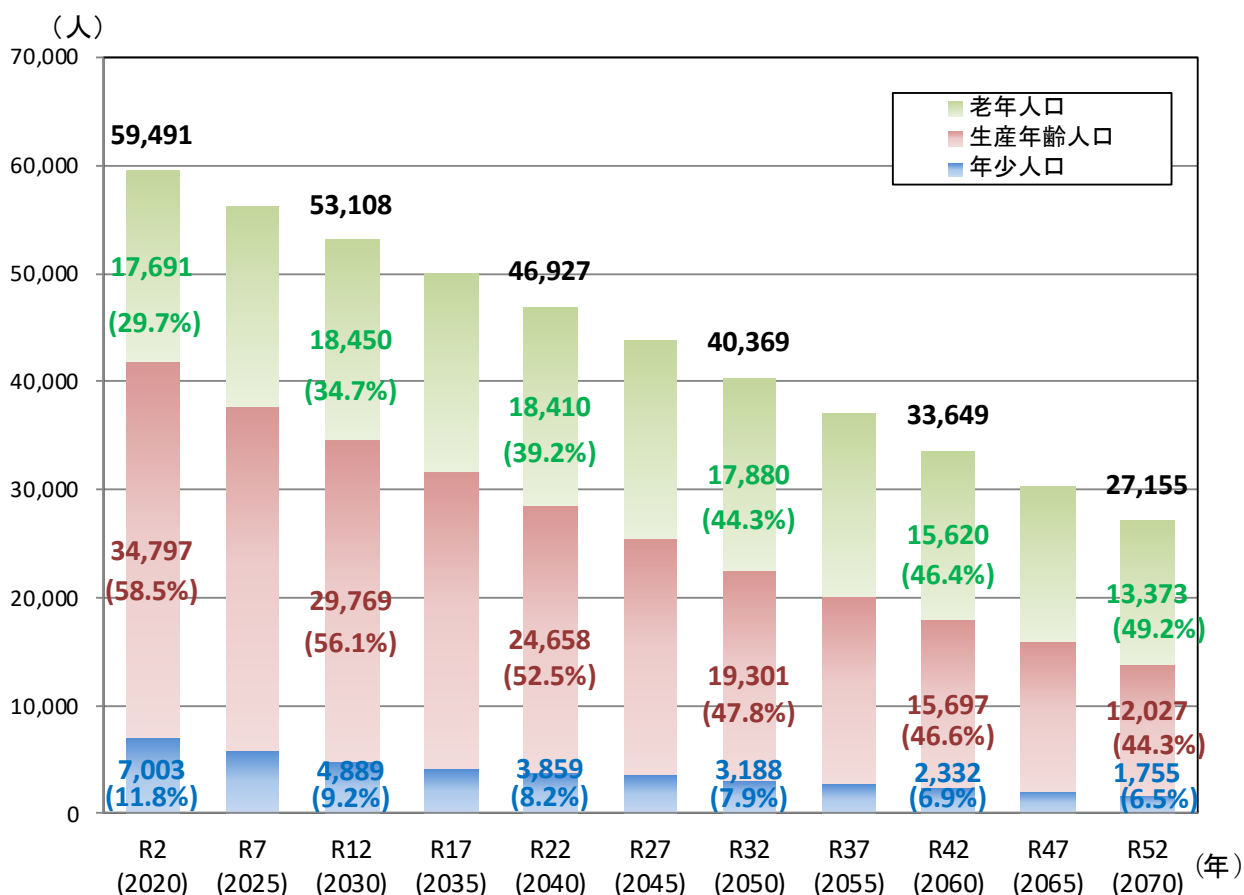
性別	産業大分類	年齢別就業者数（人）							年齢階層構成						
		15～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	総数	15～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	総数
男	農業、林業	37	82	87	99	363	398	1,066	3 %	8 %	8 %	9 %	34 %	37 %	100 %
	建設業	167	220	343	272	412	152	1,566	11 %	14 %	22 %	17 %	26 %	10 %	100 %
	製造業	1,197	1,261	1,621	1,408	623	128	6,238	19 %	20 %	26 %	23 %	10 %	2 %	100 %
	運輸業、郵便業	64	164	220	274	257	33	1,012	6 %	16 %	22 %	27 %	25 %	3 %	100 %
	卸売業、小売業	215	249	343	261	297	154	1,519	14 %	16 %	23 %	17 %	20 %	10 %	100 %
	金融業、保険業	26	37	31	51	34	6	185	14 %	20 %	17 %	28 %	18 %	3 %	100 %
	宿泊業、飲食サービス業	64	77	120	84	121	55	521	12 %	15 %	23 %	16 %	23 %	11 %	100 %
	医療、福祉	109	159	155	128	133	56	740	15 %	21 %	21 %	17 %	18 %	8 %	100 %
女	農業、林業	28	62	69	74	267	236	736	4 %	8 %	9 %	10 %	36 %	32 %	100 %
	建設業	25	41	89	69	67	21	312	8 %	13 %	29 %	22 %	21 %	7 %	100 %
	製造業	450	587	748	606	304	73	2,768	16 %	21 %	27 %	22 %	11 %	3 %	100 %
	運輸業、郵便業	29	42	58	39	23	7	198	15 %	21 %	29 %	20 %	12 %	4 %	100 %
	卸売業、小売業	270	307	412	466	427	140	2,022	13 %	15 %	20 %	23 %	21 %	7 %	100 %
	金融業、保険業	50	49	57	77	30	7	270	19 %	18 %	21 %	29 %	11 %	3 %	100 %
	宿泊業、飲食サービス業	122	135	214	195	251	104	1,021	12 %	13 %	21 %	19 %	25 %	10 %	100 %
	医療、福祉	323	445	558	511	383	66	2,286	14 %	19 %	24 %	22 %	17 %	3 %	100 %

資料：総務省統計局「国勢調査」

2-2 将来人口の推計

- 国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」と言う。）の推計によると、本市の人口は、令和 22（2040）年に 46,927 人、令和 42（2060）年に 33,649 人まで減少すると見込まれています。
- 年齢3区分別にみると、年少人口と生産年齢人口は一貫して減少し続けますが、老年人口は令和 12（2030）年まで増加し、その後減少に転じます。
- 令和 12（2030）年以降は、老年人口が減少しますが、生産年齢人口も減少しているため、総人口に占める老年人口の割合は増加し、令和 22（2040）年には 2.5 人に 1 人、令和 42（2060）年には 2.2 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者になると見込まれます。

年齢区分別将来推計人口の推移



資料：2020／総務省統計局「国勢調査」
2025～2070／社人研の推計条件による将来予測結果

2-3 人口の変化が地域の将来に与える影響

「2-2 将来人口の推計」で示したとおり、本市は、今後も少子・高齢化と人口減少が同時に進行すると見込まれます。

このことが、地域の将来に与える影響として、次の点が懸念されます。

（１）住民生活への影響

- 人口が減少することにより、一定規模の人口によって成り立っている小売や飲食、医療などの住民サービスを維持することが困難となり、日常生活が不便になると懸念されます。
- 消防団の減少など、防災の面でも支障が生じる可能性があり、町内会など、地域コミュニティの機能低下も懸念されます。

（２）地域経済への影響

- 生産年齢人口の減少により、労働力が不足することとなります。
- 労働力が確保できないため、製造業において生産規模を縮小せざるを得ない状況になると、本市では多くの雇用が失われる懸念があります。
- 高齢化や担い手不足が深刻化することで、基幹産業である農業も衰退し、食料生産にも影響を及ぼす可能性があります。
- これらが負の連鎖を招き、地域経済の規模が縮小する懸念があります。

（３）行政への影響

- 税収が減少するため、老朽化が進む社会インフラの更新や、子育て、教育、福祉など様々な面における行政サービスの維持が困難となります。
- 高齢化に伴う社会保障費の増加により、財政が硬直化する懸念があります。
- 県南地域の中核市である本市の人口減少は、生活面や経済面において近隣自治体へも広く影響を及ぼす可能性があります。

3. 人口の将来展望

3-1 目指すべき将来の方向

本市の人口は、「2-1 人口動向分析」で示したとおり、平成12（2000）年をピークに減少に転じています。

社会動態については、若い世代の転出超過が続いており、進学・就職を機に首都圏等へ転出する方や、住宅取得にあたり土地の価格が安い近隣町村へ転出する若者が多いと推測されます。

また、自然動態については、老年人口の増加に伴う死亡数の増加や合計特殊出生率の低下による出生数の減少が続いています。

このような状況から、下記の対策により社会減と自然減の現状を改善し、一定の人口規模と適正な人口バランスを確保していくことにより、将来にわたり地域の活力を維持します。

1 若い世代の転出抑制と転入の促進

若い世代、とりわけ女性の転出が進んでいることから、魅力的な雇用の創出を図るとともに、地方に根深く残るジェンダーギャップやアンコンシャスバイアスの解消などに取組み、転出を抑制していきます。

また、地方暮らしに関心を示す人が増えているため、本市の暮らしやすさを発信するとともに、首都圏との近接性などを活かした移住支援策の充実化などに取組み、転入者の増加を図ります。

2 若い世代が希望どおり結婚・出産・子育てできる環境づくり

市民アンケート調査によると、結婚しない理由や、理想の子ども数と予定のこどもの数が異なる理由に経済的な不安があげられていることから、明るい将来を設計できる魅力的な雇用の創出に加え、出産や子育て、教育にかかる経済的負担の軽減などに取組んでいきます。

また、柔軟な働き方や男性の育児参加、さらには保育サービスやコミュニティの充実など、行政や企業、そして地域が一体となって、若い世代が結婚や出産、子育てに前向きになれる環境を整えてまいります。

3-2 目標とする将来人口

社人研推計による本市の将来人口は、「2-2 将来人口の推計」で示したとおり、令和 22(2040) 年に 47,000 人程度になると予測されています。

しかしながら、上記の将来人口は、主に平成 17(2005) 年から令和 2(2020) 年の人口動向を勘案して推計したものであり、コロナ禍以降の実績を見ると、「自然減」も「社会減」もさらに拡大していることから、仮にこの傾向が継続した場合、令和 22(2040) 年の人口は 44,000 人程度になると推計されます。

このことから、社会動態については、これ以上転出超過が拡大しないようにする(＝直近の転出超過率(2.2%)を維持する)とともに、自然動態については、令和 22(2040) 年に市民の希望出生率(1.43)を実現し、令和 22(2040) 年に 46,000 人程度を維持することといたします。

<推計条件>

- ①移住・定住を促進し、特に若い世代の人口流出に歯止めをかける

⇒直近5年間(2019年～2023年)の転出超過率2.2%を維持します。

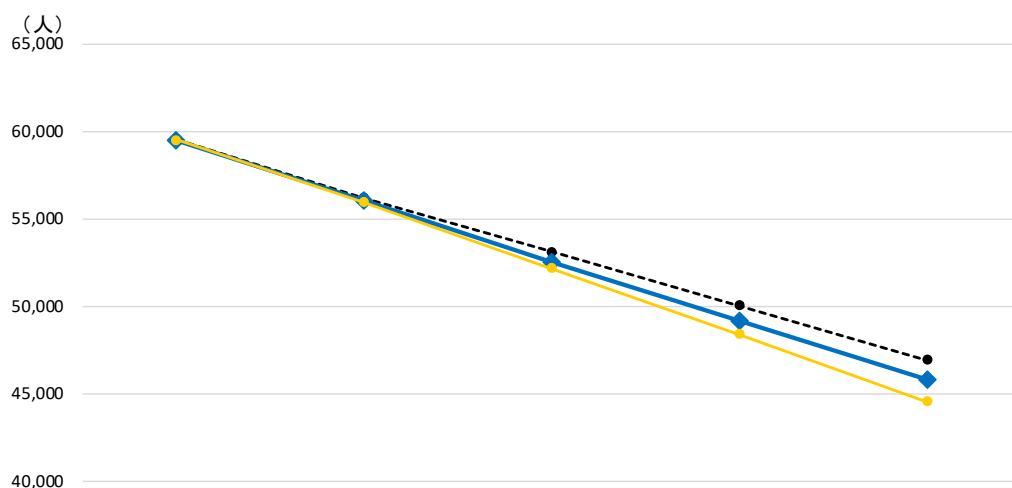
- ②若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望を実現

⇒合計特殊出生率を、令和 12(2030) 年に 1.32、令和 22(2040) 年に市民の希望出生率である 1.43 へ上昇させます。



令和 22(2040) 年に 46,000 人程度の人口を維持

人口の長期的見通し



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
---●--- 社人研の推計に準拠した場合の将来人口	59,491	56,168	53,108	50,041	46,927
—◆— 目標とする将来人口	59,491	56,029	52,525	49,144	45,812
—●— 直近の人口動態が継続した場合の将来人口	59,491	55,930	52,157	48,370	44,526

目標とする将来人口（年齢3区分別）

